鈴鹿市考古博物館
Suzuka Municipal Museum of Archaeology

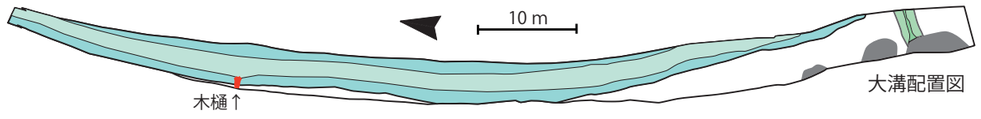
大下遺跡　大溝の下層から木樋を発見（東から）

大下遺跡（第１次）　稲生町

7 月 2 日～ 11 月 30 日　道路工事に伴う緊急調査　420㎡

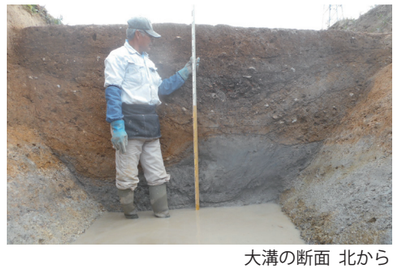
大下遺跡では初の調査です。最大の成果として，幅約 2.5 m，深さ約 1.5 mに及ぶ大溝を 70 m以上も確認できたことが挙げられます。溝は台地の内部に向かって湾曲しており，その埋土は上層と下層の 2 層に大別できます。上層からは古墳時代前期後半から中期前半頃の土器が多数，下層からは多くの木質遺物と共に弥生時代から古墳時代へと移り変わる時期の土器が出土しました。さらに，下層では木樋も見つかりました。この木樋は，大溝の西壁を切って設置されており，粘質土でパックすることで暗渠となっていました。非常に保存状態が良く，千年以上前のものとは思えない程です。

その形状から，この大溝は台地の内部にある集落などを囲むためのものと考えます。どのような性質の遺跡なのか，今後の調査によって明らかになることを期待します。



大溝配置図

木樋出土状況　南東から


大溝の断面　北から

寺山遺跡　高岡町　7 月 23 日～ 9 月 6 日

資材置場・駐車場造成に伴う緊急調査　189.5㎡

飛鳥から奈良時代の遺構や遺物の広がりを確認することができました。耕作による削平の影響で遺跡の残りが悪く残念でしたが，掘立柱建物や竪穴住居の可能性のある土坑を検出するなど，いくつかの成果は得られました。過去には当地の南西側で第 2・3・6 次調査を行いましたが，同じく飛鳥から奈良時代にかけての遺構や遺物が多数確認されており，周辺にはさらに遺跡が広がっていることが想像できます。今後の調査によって全容が明らかになることに期待したいです。

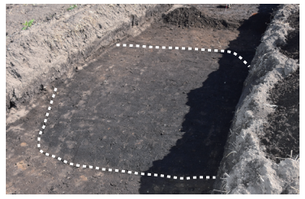
完掘風景 東から

伊勢国府跡（長者屋敷遺跡）　西冨田町

10 月 17 日～ 11 月 17 日　土砂採取に伴う範囲確認調査　637.35㎡

奈良時代のものと思われる竪穴住居を検出しました。竪穴住居は，国府政庁より南側では初めての確認となります。国府造営のためのキャンプか，あるいは運営に関わる庶民の宿舎と想定しています。

また，縄文土器の分布が集中する箇所を 3 箇所ほど確認しました。いずれも遺構は伴っていませんが，縄文時代の集落の存在を決定付ける発見といえます。

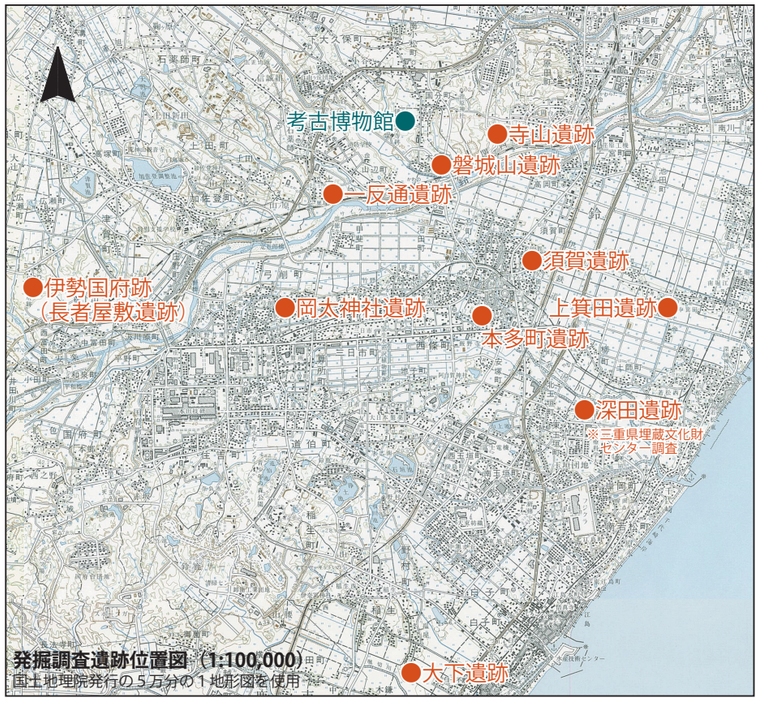

竪穴住居 西から

本多町遺跡　神戸二丁目

12 月 17 日　宅地造成に伴う範囲確認調査　5.0㎡

神戸城の範囲と重複する遺跡です。調査区はちょうど城の堀の内部にあたり，城主・本多家の家紋である立葵を施した軒丸瓦や，石垣の石材と思われる礫などが出土しました。

軒丸瓦（立葵紋）



発掘調査遺跡位置図（1:100,000）
国土地理院発行の 5 万分の 1 地形図を使用

関連行事　※予約不要・聴講無料

■発掘担当者による展示解説
と　き　4／13（土）13：30～
ところ　考古博物館 講堂

■スライド説明会
ところ　考古博物館 講堂
①5／18（土）14：00～
磐城山遺跡第 11 次，一反通遺跡第 5 次，大下遺跡第 1 次
②6／15（日）14：00～
須賀遺跡第 8・9 次，上箕田遺跡第 9 次，寺山遺跡第 8 次

さあ、きっと、もっと鈴鹿。
海あり、山あり、匠の技あり

鈴鹿市考古博物館
〒 513-0013
鈴鹿市国分町 224 番地
TEL　059-374-1994
FAX　059-374-0986
URL　http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/museum/
E-mail　kokohakubutsukan@city.suzuka.lg.jp

上箕田遺跡（第９次）　上箕田一丁目

11 月 20 日～ 11 月 29 日　社会福祉施設建設に伴う緊急調査　69.95㎡

弥生時代前期の土坑と，同時代中期前葉の溝の存在を確認しました。出土した壺がほぼ完形であったことや，遺構の形状などから，前者は土坑墓，後者は方形周溝墓の溝であると推定できます。調査区一帯が，前期から中期にかけて集落の墓域となっていたのでしょう。

また関係者によれば，市指定文化財「上箕田遺跡出土品（全 51 点）」の内のひとつである絵画土器は，今回の調査地から南に２枚離れた水田から出土したものとのことで，南側に後期の遺構が埋蔵されている可能性が高まりました。

弥生土器広口壺出土状況　北西から

磐城山遺跡（第 11 次）　木田町

4 月 10 日～ 3 月 29 日予定　農地改良に伴う緊急調査　788㎡予定

これまでの調査と同様，弥生時代後期の竪穴住居やそれに付随する排水溝などが見つかっています。調査が木田城跡の方へ進むにつれ，室町～戦国時代の遺構が見つかるようになっています。いくつか確認した区画溝の中には，道路側溝らしきものもあります。また，ちょうど道路を遮るように柱穴が並ぶことから，門のような施設があったと推定しています。

なお，今回発見が期待された古代の区画溝は，確認できませんでした。他の遺構が残っているため削平によって失われたわけではなさそうです。もともと区画溝が存在しないのか，想定よりもさらに西側に位置するのか，今後の調査に期待です。

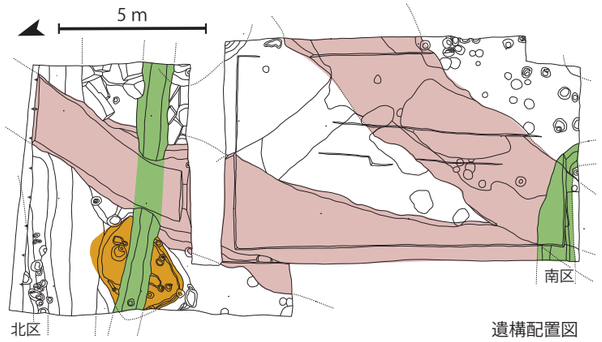
南東区完掘風景　北から

一反通遺跡（第５次）　上野町

9 月 10 日～ 10 月 12 日　個人住宅建設に伴う緊急調査　184㎡

弥生時代の溝（ ）と，室町～戦国時代の溝（ ）をそれぞれ２条確認しました。過去の調査を振り返ると，北区から南区にかけて延びる弥生時代前期の溝は，第１・２次調査で確認した溝と一続きになっているように見えます。集落を囲むための環濠か，あるいは全周せず台地と平地を区切るように掘られた溝であると考えられます。室町～戦国時代の溝は，約 14m 間隔でほぼ平行して走っていることから，区画溝と推定されます。当地の西方には高富城と呼ばれる中世城館があったとされており，関連性が気になるところです。

そのほかに，竪穴住居（ ）が見つかりました。これまでの一反通遺跡の調査では確認することのできなかった奈良時代の遺構であり，新たな知見を得ることができました。



遺構配置図
※調査終了後に行う工事の都合上，一部未完掘の箇所があります

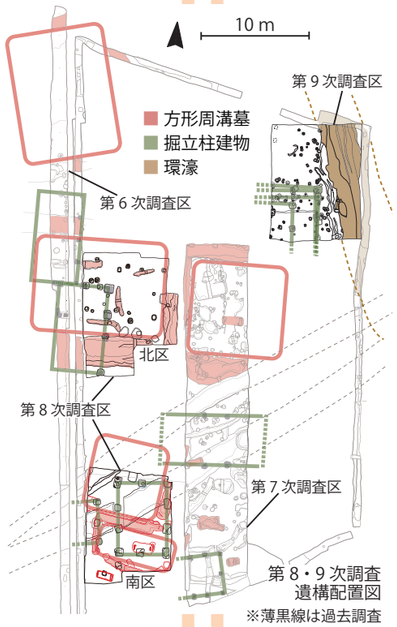
北区掘削風景　東から

須賀遺跡　須賀一丁目

（第８次）　3 月 7 日～ 4 月 5 日　157.5㎡　　個人住宅建築に伴う緊急調査　　7 月 15 日～ 9 月 6 日　88.41㎡　（第９次）

第６・７次調査において，方形周溝墓や土坑墓を複数確認しました。加えて今回の調査では，方形周溝墓の溝から弥生時代前期末・中期前葉の特徴を持つ壺が出土したことなどから，前期から中期前葉にかけて墓域が形成されたことが明らかになりました。市内のみならず，県内においても比較的古い段階のものであると考えられます。

また，平安時代の遺構として掘立柱建物を検出しました。過去に確認された一連の建物群の中でも規模が大きく，特別な役割を持つ建物であった可能性があります。



第８・９次調査
遺構配置図
※薄黒線は過去調査

第８次調査南区の方形周溝墓と土坑墓　南東から

二彩陶器小壺

弥生時代中期集落を囲む環濠の全様が明らかになってきました。調査区の東半で延長 11m を検出し，断面はＶ字状，深さは人の背丈ほどあります。居住域と墓域を隔てるように濠が走っていることから，区画溝の役割を兼ねたものと考えられます。

また，第８次調査同様，平安時代の掘立柱建物群を検出しました。建物がほぼ正方位を取ること，柱穴がしっかりしていること，同一箇所で建替えが繰り返された形跡から継続性が見て取れること，柱穴から二彩陶器小壺が出土したことなどから，地域の中核となる重要な建物であったことが予想されます。二彩陶器は，奈良時代後期から平安時代前期にかけてみられる焼物で，主に都からの出土が報告されています。須賀遺跡から二彩陶器が出土したのはこれで２例目で，都との特別な繋がりを示します。

岡太神社遺跡（第７次）　岡田一丁目

5 月 7 日～ 6 月 26 日　宅地造成に伴う緊急調査　222.92㎡

延喜式内社である岡太神社を核とするこの遺跡は，６次にわたる調査によって多くの遺構や遺物が見つかっており，まとまりの良い中世集落として知られています。第７次となる今回の調査では，床面積 80㎡を超える大形掘立柱建物や，井戸などを確認しました。柱や土坑の重なり合いから，長期間にわたって同一箇所で建て替えが繰り返された形跡が見て取れ，一般的な中世集落とは若干様相を異にします。さらに，第５・６次調査で顕著にみられた土地区画溝が，今回は確認されていません。これらのことから，大形掘立柱建物を主殿とする居宅が広大な敷地を確保し，長期間ここに存在していたことが推測できます。所有者は荘官や地頭，あるいは神人といった有力者であったかもしれません。

大形掘立柱建物　東から